

気候変動の影響で発生したラニーニャによって、今年の日本列島の大雪ならびに厳冬がもたらされたそうです。いわゆる温暖化の影響で寒冬になるとは、なんとも不可思議な現象です。先週、都内で開催した事業者部会では、今シーズンの寒冬と灯油の価格上昇について、ペレット業界への影響を話し合いましたが、意外とプラスの影響はないそうで、例年と変わらないというのが各社の反応でした。逆に過去2年の暖冬の影響で各社厳しい経営環境を強いられてきたことによるボディーブローが辛いといったような意見もあり、ペレット躍進にはまだ時間がかかりそうです。

昨年秋から始まった木質ペレット燃料のJAS化の検討委員会は、先々週に最後の委員会(第4回)が開催され、最終的なとりまとめが行われました。順調にいけば夏前にJAS調査会で審議され、夏か秋には発行される予定です。

ペレットストーブ業界にとっては、やはり2020年の省エネ基準の完全施行が非常に大切なターニングポイントです。1年以上開催されていないTG(テクニカル・グループ)の開催に向けて、各社、もらった宿題をクリアすることを確認しました。3月末までにはデータ類を整備して、次年度にTGを開催し、年度内にはペレットストーブの評価が受けられるよう準備したいと考えております。

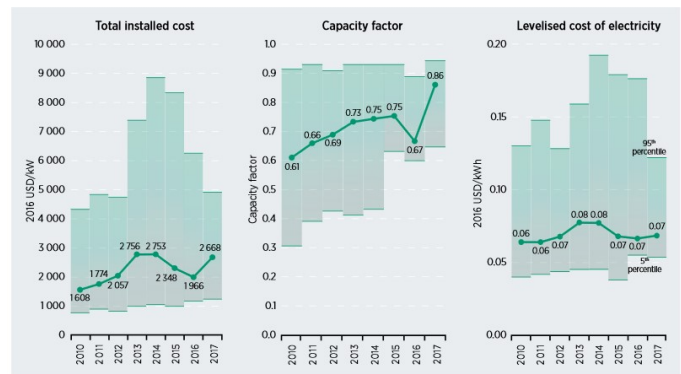
IRENA(国際再生可能エネルギー機関)が本年1月に発表した「再生可能エネルギーの発電コスト2017」によると、2010年からの7年間で太陽光や陸上風力の発電コストが大幅に低下したとのことです。気になってバイオマスの項目を確認したら、バイオマスは燃料や変換技術が多様であり地域性もあるので世界全体でみると低下しているわけではなさそうです。昨年11月に開催した国際フォーラムの結論がそうであったように、バイオマスの場合は、熱利用が採算性確保という点で重要なので、単純な発電コストという比較は難しと思いました。

とはいえ、本日の日経の記事にもあるように、パナソニックや三井物産など7社が市町村に地産地消型の小型バイオマス発電所を導入するための開発で連携するというので、日本では小型のガス化発電への関心が当面高まりそうです。記事には三洋貿易が扱うブルグハルトの写真が掲載されていたので、ペレット業界も小型CHPの取り組みから目が離せません。今回は前置きが長くなってしまいました。



先週の部会の様子

Figure 2.7 Global weighted average total installed costs, capacity factors and LCOE for bioenergy for power, 2010-2017



Source: IRENA Renewable Cost Database.

IRENA の報告書から引用

1. 木質バイオマス関連情報

■(株)リライト(東京)、山口県岩国市の事業者から受注した木質バイオマスガス化 CHP システム(50kWe)の試運転を3月にも行う予定。同社が扱う熱分解ガス化 CHP はイタリアのメーカー「RM グループ ESPERIA S.r.l.」製。燃料は木質チップで最高含水率 40%でも対応可(バークも使用可)。リライトは岩国再生エネルギー(株)(山口)、(株)フジコー(東京)、ダレスサンドロジャパン(株)(福岡)の3社によるパートナーシップで設立。2017年11月からRMグループの日本国内総代理店として営業展開し、既に長崎県対馬市で2号機の着工が決定している。2号機は2018年夏頃から工事を開始、秋頃の稼働開始予定【OSR No.307:2018/01/10、(株)リライト:2018/01/27】

<https://rewrite.asia/>

■新日鉄住金エンジニアリング(株)(東京)、麻生商事(株)(福岡)との共同事業体を設立し、2017年12月27日付で福岡市との間で「西部水処理センター下水汚泥固形燃料化事業」の基本契約を締結。同事業は福岡市が下水汚泥処分先の長期安定確保、バイオマスエネルギーとしての有効利用及び地球温暖化防止の観点より既存の焼却方式から燃料化方式に変えるとして事業者の選定を実施。造粒乾燥方式の下水汚泥固形燃料化システム「ジェイコンビ」を持つ新日鉄エンジが採用された。落札価格は9,472百万円(税抜)で設計・建設および運転・維持管理等を一括で行うDBO方式。同事業におけるCO₂排出削減量は年間約9,500tを想定。今後は2021年1月迄施設の設計・施工、2021年2月~2041年1月迄の20年間にわたり維持管理・運營業務および下水汚泥固形燃料の買取・販売業務を行う。固形燃料はセメント工場等で石炭の代替燃料として利用される計画【新日鉄エンジニアリング(株):2018/01/11、福岡市:2017/12/25】

<https://www.eng.nssmc.com/news/2018/20180111.html>

<http://www.city.fukuoka.lg.jp/doro-gesuido/kanri/business/nenryouka.html>

■グリーン・サーマル(株)(東京)、大和PIパートナーズ(株)(東京)の事業出資を受け、和歌山県西牟婁郡上富田町に木質バイオマス発電所建設を決定。県内では別の事業所も木質バイオマス発電所の建設を計画しているが、決定に至ったのは県内初。発電出力は6,760kW、想定年間発電量は一般家庭約1.3万

世帯分相当の4,800万kWh。約8万t/年の未利用材及び一般材等の利用を計画。1月12日には環境保全対策の一環として、上富田町及び発電事業会社として設立したDSグリーン発電和歌山合同会社(東京)並びにグリーン・サーマルとの三者間で公害防止協定を締結。事業運営会社はグリーン・サーマルの100%子会社のグリーン発電和歌山O&M(株)(和歌山)で、1月1日付でグリーンサーマル和歌山(株)に改称した。工事着工は2018年6月、運開は2020年3月を予定【グリーン・サーマル(株)、紀伊民報:2018/01/12】

http://www.gthermal.co.jp/dcms_media/other/ritti_hyoumei.pdf

<http://www.agara.co.jp/news/daily/?i=345708&p=more>

■全国の「バイオマス産業都市」でつくる連絡協議会の視察団が、木質資源の先進的な利活用を進める岡山県真庭市を視察(1月16日)。農水省等7府省が認定した国のバイオマス産業都市(79市町村)から12自治体の首長ら24人が参加。間伐材など未利用木材をチップ化した燃料で発電する真庭バイオマス発電所や地元の集成材メーカーが操業する国内初のCLT工場等を見学。発電所では、担当者から出力1万kWの能力いっばいに発電を続け、約9割を電力会社に売電し、一部は市役所などの地元施設にも供給しているとの現状説明を受けた。連絡協会は2014年に発足。真庭市が初の現地視察先【山陽新聞:2018/01/16】

<http://www.sanyonews.jp/article/654918/1/%3Frct%3Dsakusy&ct=ga>

■フィリピンの電力大手アボイティス・パワーは1月15日、完全子会社アセアガスがバタンガス州リアンに建設し、操業を停止していたバイオマス発電所(発電出力8,800kW)を閉鎖すると発表【NNA ASIA アジア経済ニュース:2018/01/17】

<https://www.nna.jp/news/show/1713076>

■高知県、「浦戸湾東部流域下水道高須浄化センター消化ガス発電事業」で月島機械(株)と正式に事業契約を締結したと発表(1月16日)。事業は高知市、南国市、香美市の3市の下水を処理する高須浄化センターで発生する消化ガスを高知県が月島機械に売却するとともに、発電施設用地を同社に貸与。月島機械は事業用地に発電施設を建設し、下水汚泥の減量化の際に発生する消化ガスを利用してFITバイオマス発電事業を行う。

発電規模は 748kW (374kW×2 台)、年間想定発電量は一般家庭約 1,200 世帯分に当たる約 422 万 kWh。2017 年 2 月 28 日に発電設備認定を取得済み。発電施設建設は 2020 年 4 月～9 月 30 日迄、発電開始は 2020 年 10 月から。事業期間は 2020 年 10 月～2040 年 9 月までの 20 年間の予定【OSR No.308 : 2018/01/17、高知県、月島機械 (株) : 2018/01/16】

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/171801/2018011200447.html>

<https://www.tsk-g.co.jp/news/pdf/201801161300.pdf>

■住友重機械エンバイロメント (株) (東京)、梅調味廃液を利用したバイオガス発電型嫌気性廃水処理システムを梅加工食品会社の中田食品 (株) (和歌山) から受注。和歌山県西牟婁郡上富田町に新設する「中田食品バイオガス発電所」に中田食品および地域で発生する梅調味廃液を受け入れ、嫌気処理設備「バイオインパクト」で廃液を浄化。処理工程で発生するバイオガスで発電を行う。従来梅調味廃液は糖分が高く、嫌気処理設備には不向きとされていたが、住友重機械エンバイロメントの独自技術でこの問題を解決。プラント設計、工事、試運転は同社が、納入後の管理と運営は宮惣ケミカル (株) (和歌山) が行う【住友重機械エンバイロメント (株) : 2018/01/18】

<http://www.shiev.shi.co.jp/topics/20180118/>

■兵庫県朝来市、施設管理の都合上により、朝来バイオマス発電所の見学をしばらくの間休止すると発表。再開次第同市ホームページ上で連絡すること【朝来市 : 2018/01/18】

<https://www.city.asago.hyogo.jp/0000006546.html>

■中部電力 (株) (愛知)、三重県尾鷲市の尾鷲三田火力発電所 (計 87.5 万 kW、石油燃焼) の運転を 2018 年度限りで終了する方針。エネルギー自由化や省エネの浸透で販売電力量が先細りする中、原発一基分 (100 万 kW) に迫る異例の大規模な出力削減に踏み切る。中電で建て替えを伴わず火力発電所を閉じるのは静岡県の旧新清水火力 (15.6 万 kW) 以来 14 年ぶり。3 月にも公表する電力供給計画に盛り込む方向で地元との協議に入り、三重県と経産省にも近く伝達する。一方でバイオマス発電所を市内に新設する見通し。関係者によると新設するのは 1 万 kW 未満の小型のもので、地元の間伐材を燃料として林業活性化に役立てる。発電の排熱は魚の養殖に活用。環境に優しいバイオ発電を通じ、県南部の産業振興に寄与したい考え【中日新聞 : 2018/01/19】

<http://www.chunichi.co.jp/article/front/list/CK2018011902000064.html>

■日本コムシス (株) (東京) と前田産業 (株) (鹿児島) が、鹿児島県枕崎市市内での木質バイオマス発電事業開始のため、2017 年 10 月に発電事業会社「枕崎バイオマスエナジー合同会社」を、同年 11 月に木質燃料製造会社「枕崎バイオマスリソース合同会社」をそれぞれ設立し、「枕崎 海と山とを結ぶ共同事業」を展開していくと発表。枕崎バイオマスエナジー合同会社は鹿児島県内で未利用になっている樹皮を中心とした 100% 国産森林資源を使用し発電する。発電規模は 1,990kW、2020 年に商業運用を開始し、全量を九州電力 (株) に売電する予定。枕崎バイオマスリソース合同会社は地域のあらゆる木材を集荷し、建築用に利用可能な木材は製材工場等に、針葉樹の低質材や樹皮は発電用燃料として供給。枕崎周辺で豊富な広葉樹は不足しがちな鏝節製造用の薪として活用し、安定供給を目指す【日本コムシス (株) : 2018/01/19】

http://www.comsys.co.jp/release/2018/01/post_238.html

■不動産関連事業者の (株) フージャースホールディングス、エネルギービジネスに本格参入すると発表。メガソーラー発電設備又はバイオマス発電設備を取得又は新設して投資家に売却することにより、当該設備の売却益を得ることを検討する。1 月 19 日には合同会社開発 51 号 (東京) を営業者とする匿名組合と契約締結し、匿名組合出資持分の取得を決定。取得額は 17 億 9,500 万円で取得割合は 100%。投資対象であるバイオマス発電設備は、茨城県神栖市にある神栖バイオマス発電設備 I (出力 17,640kW) と神栖バイオマス発電設備 II (同、21,560kW) で、両施設共 2020 年 3 月完工予定【(株) フージャースホールディングス : 2018/01/19】

<http://pdf.irpocket.com/C3284/u3wX/qycc/DbgB.pdf>

■再生可能エネルギーの活用を企業の評価材料とする世界の潮流が日本にも。日本経済新聞社が第 21 回環境経営度調査を実施。国内の主要製造業は 2020 年度までの 4 年間に再生エネによる電力の使用量を 2016 年度実績に比べ 2 割増やす計画であることが明らかに。ただ事業で使う消費電力全体に占める再生エネ率は 20 年度でも 4%弱にとどまり、欧米に比べて見劣りする。普及を妨げている再生エネ導入コストの引き下げやインフラ網の充実が急務【日本経済新聞 : 2018/01/21】

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ025954190Q8A120C1S>

■大阪ガス（株）（大阪）100%子会社の（株）ガスアンドパワー（同、以下「G&P」）が、（株）インテグリティエナジー（同）が中心となり設立した事業運営会社「バイオマスパワーテクノロジー（株）（三重県松阪市）」に出資し、松阪市におけるバイオマス発電事業参画へ。出資比率は G&P が 14.5%、インテグリティエナジー他 11 社が 85.5%。松阪木質バイオマス発電所の発電容量は 1,990kW。木の皮や根も燃やせる直接燃焼方式を採用。間伐材や建設廃材等の木質チップ 3 万 t/年を燃やして発電。約 4,000 世帯の年間使用量に相当する 1,393 万 9,200kWh の発電を見込む。発電した電力は新電力事業者(PPS)を通じ、近隣需要家に供給する。総事業費は 17 億 2,000 万円。昨年 2 月に着工し、今年初めから商業運転を開始、1 月 22 日に完工式を開催。木質バイオ発電は県内 4 基目で松阪市内では 2 基目。近隣の既設バイオマス発電所と運営体制を共有しつつ、燃料は松阪市内のウッドピア木質バイオマス利用協同組合から調達し、大阪ガスの火力発電所運営の知見を組み合わせることで、安定的な事業運営を行う【大阪ガス（株）：2018/01/22、毎日新聞：2018/01/23】

http://www.osakagas.co.jp/company/press/pr_2018/1267908_37838.html

<https://mainichi.jp/articles/20180123/ddl/k24/020/196000c>

■静岡県南伊豆町、同町南上地区で南上財産区管理会、（株）いしい林業（同町）（株）および（株）エジソンパワー（東京）と 1,000kW 規模（1,000 世帯相当）のバイオマス発電を行うことを発表（1 月 23 日）。エジソンパワーの全国 2 例目となる、バイオガス発電システムを採用する。燃料は南上地区に広がる雑木林等を伐採し、40t/日消費。同町はかつての炭焼きの名残で広葉樹の雑木林が多い。材木としての利活用が難しく里山は荒廃し野生獣の温床になっているため、里山整備や獣害対策につなげるのが狙い。2月5日に同町と各団体が協定を締結。2022年度を目途に移働する予定【伊豆新聞：2018/01/24】

<http://izu-np.co.jp/shimoda/news/20180124iz1000000006000c.html>

■経産省、1 月 19 日開催の固定価格買取制度（FIT）の調達価格等算定委員会（第 35 回）で、住宅太陽光を除いた旧 FIT 制度下での認定案件の失効状況の推定値を公表。2016 年 6 月 30 日までの再生可能エネルギー全体の認定容量である約

96.22GW（約 315 万件）のうち、失効したのは約 16.1GW（約 27 万件）。この数値は石炭・バイオマス混焼の場合に「バイオマス比率」を考慮し、石炭分を除外している。内訳は、非住宅太陽光が約 14.63GW（約 26 万件）、バイオマスが約 0.95GW（82 件）、風力が約 0.38GW（710 件）、中小水力が約 0.14GW（64 件）、地熱が 4MW（21 件）。2018 年度のバイオマスの入札量については、前回の委員会で一般木材等バイオマスとバイオマス液体燃料を合わせて 200MW とする方向でまとまった。今回の委員会では、認定案件の全てが稼働するとは考えづらいとの指摘から認定量ではなく導入量を基準に設定するとし、2016 年度末時点の導入量割合等を踏まえ、「2018 年度の入札量は一般木材等バイオマス 180MW、バイオマス液体燃料 20MW としてはどうか」と事務局が提案【メガソーラービジネス：2018/01/24、経産省：2018/01/19】

<http://techon.nikkeibp.co.jp/atcl/news/16/012410565/?ST=msb&P=1>

http://www.meti.go.jp/committee/shotatsu_kakaku/pdf/035_01_00.pdf

■三井造船（株）（東京）のエンジニアリング子会社 Burmeister & Wain Scandinavian Contractor A/S（デンマーク、以下「BWSC」）が 2019 年度に日本法人「BWSC ジャパン」を設立へ。新会社は第一段として、三井造船が千葉県市原市に建設する最新鋭バイオマス発電プラントの特別目的会社（SPC）への出資を予定。同時にアジアの発電プラントに強い三井造船と、欧州やアフリカに強い BWSC の両社が連携を強化することで、海外市場を含めた多様な分散型発電プラント需要にこたえる【化学工業日報：2018/01/25】

http://www.kagakukogyonippo.com/headline/2018/01/25-325_02.html

■茨城県土浦に、国内初となるメガワット級の廃食用油燃料のバイオマス発電所が完成。1 月 21 日に記念式典開催。下妻市内の農事組合法人「百姓倶楽部」等が土浦市で廃食用油リサイクルを目指していた経緯から発電事業への利用を考え、（株）つくばグリーンパワープラント（茨木）を設立。そのつくばグリーンパワープラントが発電所を総事業費約 4 億円で建設した。最大発電量は一般家庭約 3,300 世帯分の 2MW。ディーゼル発電機で、レストランやスーパーなどの事業所から廃棄された油を処理業者三社と百姓倶楽部などから調達し、最大で年間約 4,000kL 消費。電力小売会社のゼロワットパワー（株）（千葉）

がつくば市内の工場や、常陸太田市内の病院、大洗町のホテルなど県内約 10 カ所と契約し、2 月から売電を始める予定【東京新聞：2018/01/26】

<http://www.tokyo-np.co.jp/article/ibaraki/list/201801/CK2018012602000173.html>

■福岡県大木町、総務省の「2017 年度ふるさとづくり大賞」で地方自治体表彰受賞。同町は 2005 年にバイオマスタウン構想を策定。ごみの再資源化と焼却・埋め立てゼロを目指した取り組みを進めており、生ごみなどの処理施設「おおき循環センターくるん」で、生ごみやし尿を発酵させバイオガスや液肥などに再生している。賞の選考では「ごみの資源化・減量化の徹底を 10 年以上継続し、効果を生み出している」「循環のまちづくりを通じ、バイオマスセンターや地産地消レストラン、農産物直売所などでの雇用創出にもつながっている」ことなどが評価された【西日本新聞：2018/01/29、総務省：2018/01/19】

https://www.nishinippon.co.jp/nnp/f_chikugo/article/389820/
http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01gyosei09_0200057.html

■法改正からまだ半年で、FIT バイオマス発電に制度変更？突然すぎる FIT 見直しについて、制度変更の内容とバイオマス発電事業への影響を弁護士が Q&A 方式で解説【日経テクノロジーオンライン：2018/01/30】

<http://techon.nikkeibp.co.jp/atcl/feature/15/031400074/012900013/?ST=energytech&ct=ga/&rt=nocnt>

■ドイツのシンクタンク、アゴラ・エナジーヴェンデ、欧州の風力と太陽光、バイオマスの発電量が 2017 年に初めて石炭火力を上回ったと発表。再エネから水力を除く「新・再エネ」の 17 年の発電量の比率は 16 年比 2.1 ポイント増加の 20.9%、石炭火力は 0.9 ポイント減少で 20.6%に。新・再エネの比率は 2010 年からの 7 年で 2 倍以上増加。国別の 17 年はデンマークが 16 年比 7 ポイント増えて 74%に達し、ドイツは 30%、英国は 28%だった。CO₂ 排出量は、電力消費量が増えたほか独仏の原子力発電が減ったことが影響し、ほぼ横ばいだったが、CO₂ を多く排出する石炭火力発電を止める方針の国が相次いでおり、再生エネへの移行が鮮明に【日本経済新聞：2018/01/30】
<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ026330810Q8A130C1F2000/?ct=ga>

■名城大学持続可能イノベーション社会創成センター（愛知）が、雑草から生産したメタンガスでガスエンジンを燃焼して発電するシステムを開発。雑草を刈り取って土壌に混入、水を湛えた後にシートで覆う。酸素が無い状態で微生物発酵し、バイオメタンガスを生産する仕組み。エンジンはメタンガス向けに最適制御をかけており、供給電力は出力約 800W まで高められた。同センターは稲わら 1kg から濃度 60~70%で 310ℓ のバイオメタンガスを生産し発電する技術を確立しており、これを雑草にも応用した。エンジン始動などの自動化システムを開発し、2020 年をめどに実用化を目指す。さらにガスエンジンは、コージェネレーション（熱電併給）システムとしての活用も研究している。熱で湯を沸かして農業用ハウスに電気とともに供給しハウスの温度制御に活用、園芸作物などの栽培に生かす方針【ニュースイッチ：2018/01/31】

<https://newswitch.jp/p/11867>

■神奈川工科大学（神奈）応用バイオ科学科の仲亀誠司准教授が、きのこの一種であるヒラタケを用いて、おがくず等のセルロース系バイオマスから合成ゴムの原料であるイソプレンを直接生産することに成功。木材等のセルロース系バイオマス資源は高温・高圧下で化学薬品を使用してグルコースが多数結合したセルロースを取り出す必要があるのに加え、セルロースをグルコースに変換するためには高価な酵素の使用が必要であり、また高い純度が要求される化学製品の原料をつくる場合には精製の負荷が大きいという問題点もあった。仲亀准教授はキノコの中でも木材の分解力が高いヒラタケにイソプレンを合成する能力を付与することで、化学薬品や高価な酵素を使用せずに常温でセルロース系バイオマスからイソプレンを生産することに成功。またイソプレンは揮発性が高く、セルロース系バイオマスに含まれる不純物からの分離が容易であることも発見。イソプレンの原料となっている化石資源から置き換えることにより、CO₂ 排出量削減効果が見込まれる【大学プレスセンター：2018/02/05】

<https://www.u-presscenter.jp/2018/02/post-38813.html>

■製紙国内最大手の王子ホールディングス（株）（東京、以下「王子 HD」）と同 6 位の三菱製紙（株）（東京）が 2 月 6 日、資本業務提携すると発表。現在王子 HD は三菱製紙に約 2%出資しているが 33%まで高め、三菱製紙が実施する第三者割当増資を引き受けて約 23%の株式を取得する。出資は 2018 年 7 月から 2019 年 12 月迄に終える予定。両社はすでにバイオマス発

電所やティッシュなどの家庭紙分野で提携しているが、今後は「合併事業等への新規設備投資による収益の向上」、「原材料、燃料、薬品他の購入コスト削減」、「チップ船の共同運航による調達物流費の削減」といったことも可能と考え、検討を進める【日本経済新聞、王子HD：2018/02/06】

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ02658319006022018TJC000/>

https://www.ojiholdings.co.jp/Portals/0/resources/content/files/news/2018/20180206_mi_jp.pdf?TabModule958=0

■既設の石炭火力発電所のCO₂排出量を減らすバイオマス新燃料続々。出光興産（株）（東京）は同排出量を最大3割減らせる燃料を開発し、新日鉄住金エンジニアリング（株）（東京）は廃棄植物から燃料を作る装置を販売【日本経済新聞：2018/02/07】

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZ02661726006022018TJ1000/>

■米国調査会社 Navigant Research（ナビガントリサーチ）が調査レポート「世界のマイクログリッド対応技術の市場分析と予測：バイオマス発電、熱電併給システム（コージェネレーション）、ディーゼル発電、エネルギー貯蔵、水力発電、太陽光発電、風力発電の市場概要」を2018年2月発行。マイクログリッド対応技術（MET）の世界市場を分析。METに関連するケーススタディ、政府のインセンティブ、新しい規格・標準、主要技術とハードウェアを評価し、市場勢力図も記載。2026年までの発電容量と収益を技術と地域毎に予測。レポートは有料【BIGLOBE：2018/02/07】

https://news.biglobe.ne.jp/economy/0207/dre_180207_0061227872.html

■環境技術開発を手掛ける（株）TBM（埼玉）が、食品排水中の油脂をバイオマス燃料化する技術と発電システムを開発。「川崎国際環境技術展2018（2018年2月1日～2日開催）」で、この技術を搭載した“バイオマス発電車”を利用し、電気自動車（EV）に充電を行うデモを披露。同展で「ベストマッチング大賞」を受賞。同社はNEDOの支援を受けて燃料生成技術を開発。化学合成を行うことなく、新しいバイオマス燃料としてSMO（Straight Mixed Oil）を生成することが可能に。2015年より飲食店や食品工場の排水から分離した油脂をバイオマス燃料化する事業を開始し、2017年9月には、排水油脂を原料

とする発電燃料 SMO を開発したと発表していた【スマートジャパン：2018/02/09】

<http://www.itmedia.co.jp/smartjapan/articles/1802/09/news051.html>

■洗陽電機（株）（兵庫）、沖縄で新電力初の低圧電力販売へ。同社は2010年に沖縄営業所を開設して以来、省エネルギーのための設備改修工事や、太陽光発電事業などを展開。県内の様々なパートナー企業との協業を通じた関係構築を進めてきたことから当地のバイオマス発電や太陽光発電等による電源を調達でき、2016年12月には高圧の需要家向け電力供給を開始。今回低圧の電力調達も目処が立ち、3月1日からの供給開始に至った。沖縄県は全国的にみても低圧電気料金が高いエリアの一つだったが、洗陽電機が沖縄電力より安い低圧電力を提供し、健全な価格競争によって沖縄県の一般家庭に新しい選択肢を提供するとしている【洗陽電気（株）：2018/02/09】

<http://www.koyoelec.com/news/release/20180209-2049.html>

■長野県中川村が、村総面積の約77%を占める森林に着目し、間伐材などで作った薪をボイラやストーブの燃料として供給する「木の駅事業」開始へ。村在住者や山林所有者が対象。山林で切り出した木材を最長で180cmに切り、軽トラック等に積んで同村葛島の「かつらの丘マレットゴルフ場」駐車場へ搬入。薪の原木は数量（木の体積）に応じて「里山券」と呼ばれる地域通貨の金券と交換。金券は登録した村内の商店や飲食店で支払いに使える。2月7日には運営主体となる実行委員会を設立。3月から事前の運用実験を行い、今年10月から本格的に始動。集めた薪は今後専用ボイラを設置する予定の村観光宿泊施設「望岳荘」で消費する計画。将来的には一般家庭や事業所へ薪ボイラやストーブを普及させる構想もあるとのこと【長野日報：2018/02/09】

<http://www.nagano-np.co.jp/articles/27992>

■再生エネ 地産地消を支援 パナソニックなど7社
パナソニック、三井物産など7社は地域密着型の再生可能エネルギー電源の開発で連携する。市町村の相談を共同で受け、地元で出る廃木材をバイオマス燃料として使う小型発電所などの建設を促す。NTTデータも地域新電力会社を対象にエネルギーの地域循環のコンサルティング業務を始めた。電力市場の自由化を機に、再生エネの「地産地消」を望む市町村が増えているのに応える。【日本経済新聞：2018/02/19】

2. ペレット関連情報

■(株)エイブル(福島)、2019年に木質ペレットを燃料とした国内最大級のバイオマス発電所建設開始へ。同社は原発などの発電プラントの保守・点検、ロボット設計・開発等を手掛けている企業だが、2011年3月11日に発生した東日本大震災を機に再生可能エネルギー事業にも力を注ぐように。バイオマス発電所は出力11万2,000kWで、いわき市の全世帯分をまかなえる電力量に相当。2022年の稼働を目指す。またパーム油を使った発電所も2020年の東京五輪に合わせて稼働を始める予定【産経デジタル:2018/01/13】

<http://www.iza.ne.jp/kiji/economy/news/180113/ecn18011310100013-n2.html>

■国連食糧農業機関(FAO)と欧州復興開発銀行(EBRD)が評価報告書「Sustainable bioenergy options from crop and livestock residues」を発行。エネルギー需要の増加や温室効果ガス排出削減に対応しようとする国々が再生可能エネルギー利用に移行しようとする中、見落とされがちだった農業残渣のバイオエネルギー利用について、エジプト、トルコ、ウクライナでの可能性を探ったもの。例えばエジプトでは、地元の利用可能な農作物残渣由来のブリケットやペレットから約160万世帯に調理と暖房用のエネルギーを供給できる可能性があることが分かった。世界有数の農業国であるトルコは、2023年までに全エネルギー消費量の20%を再生可能資源由来のものにしたいと考えているが、落花生やピスタチオ、ヘーゼルナッツの殻、トウモロコシ穂軸等の直接燃焼、および家畜糞尿等の嫌気性消化で得られるエネルギーを利用することにより、国のバイオマスエネルギー目標の達成が十分可能であるといったことが書かれている【国連食糧農業機関(FAO):2018/01/16】

<http://www.fao.org/europe/news/detail-news/en/c/1096479>

■長野県伊那市のトマト農家が、市内で初めて農業用ペレットボイラの運用を開始。これまで重油焚ボイラを使っていたのをやめて今年度から導入。室温が10度を下回ると自動運転を開始し、一定の温度を保つ仕組み。燃料には地元の間伐材を使ったペレットを使用。月に2回燃料を補充しており、経費は重油に比べ若干高いものの、3年間は市から補助が出る。伊那市は今年度二酸化炭素排出抑制計画を策定しており、ペレットストーブやボイラの導入に対し補助を行っている。今回のトマト農家も市から導入経費の2/3にあたる約260万円の補助を受けた。市内ではほかにいちご農家が導入を検討中【伊那谷ねっと:2018/01/16】

<http://inamai.com/www/ictnews/detail.jsp?id=50473>

■ペレットクラブ、昨年11月21日開催の「国際フォーラム2017『バイオマス CHP の現状と未来』」の開催報告をウェブにアップ。東京大学弥生講堂で開催し、参加者数は約90名。当日の写真や発表者資料が閲覧可【ペレットクラブ:2018/01/17】

<http://www.pelletclub.jp/library/2018/01/2017chp-1.php>

■財務省の通関統計によると2017年暦年の輸入木質ペレット導入量合計は初の年間50万t超を記録。前年比146%の伸び。輸入量の最も多かったのはカナダ(360,068t)で、前年比138%と躍進。CIF価格は74億9,040万4,000円。平均価格20.8千円と、20.9千円だった前年並み。全輸入に対するシェアは71.1%で、2位のベトナム25.9%を50ポイント以上離して“ダントツ”【OSR No.311:2018/02/07】

3. イベント情報 (国内)

◎：木質ペレット燃料、ストーブ、ボイラの関連イベント

◆(株) 森林環境リアライズ「林地未利用材集荷システム実証事業に伴う現地検討会 (道南地区)」

月日 2018年2月19日(月)

場所 実証事業報告・講演会：北斗市公民館、現地検討会：北斗市向野(北海道北斗市)

<http://www.f-realize.co.jp/information/index.cgi?no=57>

◆NPO 法人農都会議 バイオマスWG/地域G 2月勉強会「林業技術の革新 第3回～国産材・間伐材の供給拡大に向けて、増大する発電需要にどう対応するか? ここ数年で何が変わったか?～」

月日 2018年2月19日(月)

場所 港区神明いきいきプラザ4階集会室A(東京都港区)

<http://blog.canpan.info/bioenergy/archive/184>

◆環境省「平成29年度廃棄物エネルギーの地域での利活用促進に関する説明会」

月日 2018年2月19日(月)

場所 (関西会場) 生駒市コミュニティセンター文化ホール(奈良県生駒市)

<http://www.env.go.jp/press/104989.html>

◆(一社) 日本森林学会 森林・林業教育シンポジウム「森林・林業の専門教育を語る」

月日 2018年2月20日(火)

場所 国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 多摩森林科学園(東京都八王子市)

<https://www.forestry.jp/others/others-mtg/20180220.html>

◆環境省、廃棄物資源循環学会「平成29年度中小廃棄物処理施設における廃棄物エネルギー回収方策等に係る説明会」

月日 2018年2月20日(火)

場所 川崎市産業振興会館大ホール(神奈川県川崎市)

<http://www.env.go.jp/press/104912.html>

◆(株) 新社会システム総合研究所 エネルギー・環境戦略特別セミナー「環境省における平成30年度重点施策とエネルギー

一対策特別会計」

月日 2018年2月20日(火)

場所 紀尾井フォーラム(東京都千代田区)

http://www.ssk21.co.jp/seminar/S_18085.html

◆Climate Action Network Japan (CAN-Japan) セミナー「自然エネルギー100%に向かう世界と日本—今求められるアクション」

月日 2018年2月20日(火)

場所 (昼) ユーズツウ 会議室H(大阪) / (夜) 神戸国際会議館 会議室805(兵庫)

<https://www.can-japan.org/events-ja/2436>

◆信州大学繊維学部/一般社団法人 NECO(自然エネルギー共同

設置推進機構)「上田地域木質バイオマス講演会～チップボイラーによる熱供給-佐久総合病院での取り組みに学ぶ」

月日 2018年2月21日(水)

場所 信州大学繊維学部講義棟11番教室(長野県上田市)

<https://www.neco.or.jp/archives/759.html>

◆認定NPO法人 気候ネットワーク セミナー「アメリカのエネルギー政策と脱石炭動向～アメリカや世界は脱石炭に向かうのか～」

月日 2018年2月21日(水)

場所 ベルサール九段 Room2(東京都千代田区)

<http://www.kiconet.org/event/2018-02-21/>

◆(一財) 日本木材総合情報センター「原木安定供給シンポジウム」

月日 2018年2月22日(木)

場所 主婦会館プラザエフ8階スイセン(東京都千代田区)

<http://www.jawic.or.jp/info/180208/index.pdf>

◆認定NPO法人気候ネットワーク 国際シンポジウム「世界の気候変動訴訟の現状と日本での可能性」

月日 2018年2月22日(木)

場所 TKP 東京駅日本橋カンファレンスセンターホール5A(東京都中央区)

<http://www.kiconet.org/event/2018-02-22/>

◆(一社)日本森林技術協会「林野庁補助事業 新たな木材需要創出総合プロジェクト事業(地域内エコシ

ステムの構築)成果報告会」

月日 2018年2月23日(金)

場所 主婦会館プラザエフ7階会議室「カトレア会場」(東京都千代田区)

<http://wb-ecosystem.jp/>

◆三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)「気候変動適応フォーラム」～途上国における気候変動適応に係るわが国企業の役割と新たなビジネスチャンス～

月日 2018年2月23日(金)

場所 三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)(東京都千代田区)

<http://www.sc.mufg.jp/company/news/inform/info20180126.html>

◆適正技術フォーラム「第1回適正技術フォーラム セミナー & グループディスカッション

『分散型エネルギー供給と適正技術』

月日 2018年2月24日(土)

場所 JICA 東京国際センター(幡ヶ谷)セミナールーム403(東京都渋谷区)

<https://atfj.jp/20180106forum/>

◆認定NPO法人芸術と遊び創造協会、東京おもちゃ美術館「第5回木育サミット in 秩父」

月日 2018年2月24日(土)

場所 秩父宮記念市民会館大ホールフォレスト・ケヤキフォーラム他(埼玉県秩父市)

<http://goodtoy.org/ms/>

◆5th NAKAGAWA KIKORI 祭 LEGEND

月日 2018年2月25日(日)

場所 中川町保健センター前広場(北海道中川町)

<https://nakagawanomori.info/kanko/kikori/>

◆栃木県「女性のための木工教室」

月日 2018年2月25日(日)

場所 宇都宮市冒険活動センター(栃木家宇都宮市)

http://www.pref.tochigi.lg.jp/d07/houdou/h29/h29jyoseinotame_nomokkou.html

◆岩手・木質バイオマス研究会 第10回定例セミナー「燃料チップの水分を把握するには？」

月日 2018年2月26日(月)

場所 アイーナ7階 岩手県立大学アイーナキャンパス学習室1(岩手県盛岡市)

<https://wbiwate.jimdo.com/%E3%82%A4%E3%83%99%E3%83%B3%E3%83%88%E6%83%85%E5%A0%B1/>

◆国際環境NGO FoE Japan シンポジウム 気候変動「難民」～大規模災害などにより住む場所を追われる人々

月日 2018年2月26日(月)

場所 NATULUCK 飯田橋東口4階大会議室A(東京都千代田区)

<http://www.foejapan.org/climate/lad/180226.html>

◆国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所成果報告会「『木の良さ』を科学するー木材がひとの触・視・嗅に及ぼす影響ー」

月日 2017年2月27日(火)

場所 東京大学弥生講堂一条ホール(東京都文京区)

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/event/2017/20180227koupuoro/index.html>

◆環境省「平成29年度環境表示の信頼性確保のための調査業務 環境表示の信頼性確保のためのセミナー ～木材の合法性証明について～」

月日 2018年2月27日(火)

場所 大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)(大阪府大阪市)

<https://www.ecomark.jp/pdf/180227seminar.pdf>

◆LSによるスマート精密林業コンソーシアム、他「フィンランド・日本合同シンポジウム『レーザセンシングによるICTスマート精密林業 in 東京』

月日 2018年2月27日(火)

場所 都道府県会館101会議室(東京都千代田区)

<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/ims/topics/fr/ictin.html>

<http://www.diplo.jp/>

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/event/2018/20180302workshop/index.html>

◆ル・モンド・ディプロマティーク「ル・モンド・ディプロマティーク編集長フィリップ・デカン氏来日講演『破局的な気候変動をいかにして回避するか』

月日 2018年2月27日(火)

場所 アンスティテュ・フランセ東京 エスパス・イマージュ
(東京都新宿区)

<http://www.diplo.jp/>

◆リードエグジビジョンジャパン(株)「スマートエネルギーWeek 2018」

月日 月日 2018年2月28日(水)～3月2日(金)

場所 東京ビッグサイト(東京都江東区)

<http://www.wsew.jp/>

◎リードエグジビジョンジャパン(株)「スマートエネルギーWeek 2018内『第3回国際バイオマス発電展』

月日 2018年2月28日(水)～3月2日(金)

場所 東京ビッグサイト(東京都江東区)

<http://www.bm-expo.jp/>

◎(一社)日本木質バイオマスエネルギー協会「林野庁事業成果報告セミナー」

月日 2018年2月28日(水)～3月2日(金)

場所 東京ビッグサイト(東京都江東区)

<http://reed-speaker.jp/Conference/SE/2018/top/?id=BM&gid=12&lang=jp>

◆東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部シンポジウム「気持ちよく納められる森林環境税とは？」

月日 2018年3月1日(木)

場所 弥生講堂一条ホール(東京大学農学部内)(東京都文京区)

<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/event/sympo20180301.html>

◆(一財)地域活性化センター「平成29年度地方創生フォーラム in 東京『「木づかいでつなぐ都市と農山村』

月日 2018年3月1日(木)

場所 ベルサール飯田橋ファースト(東京都文京区)

https://www.jcrd.jp/index.php?option=com_content&view=article&id=1823-%E5%B9%B3%E6%88%9029%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E

◆国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所公開ワークショップ「半炭化技術による木材利用の新展開」

月日 2018年3月2日(金)はワークショップ、3月3日(土)は見学会

場所 ワークショップ:奈良県立橿原文化会館小ホール(奈良県橿原市)

見学会:木質舗装材試験施工箇所視察(奈良県森林技術センター、大和民俗公園)

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/event/2018/20180302workshop/index.html>

◆森林総合研究所、名古屋大学公開シンポジウム「120年ぶりの森の一大イベント ササ-斉開花で森はどうなる？」

月日 2018年3月3日(土)

場所 名古屋大学経済学部カンファレンスホール(愛知県名古屋市)

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/event/2018/20180303sasasympo/index.html>

◆企画展「くまのもの 隈研吾とささやく物質、かたる物質」

開催期間 2018年3月3日(土)～5月6日(日)

場所 東京ステーションギャラリー(東京都千代田区)

<https://gqjapan.jp/life/news/20180208/kengo-kuma-a-lab-fo-r-materials/page/6>

◆暖家屋「バイオマス蓄熱暖房ワークショップ」

月日 2018年3月4日(日)

場所 暖家屋ワークショップ(福岡県八女郡広川町)

<http://blog.livedoor.jp/attakaya/archives/52916600.html>

◆日本の森をもっとワクワクさせるポータルサイト「森のしごとが見つかる!森林業界に特化した新卒フェア」

月日 2018年3月4日(日)

場所 moriwaku cafe (愛知県名古屋市)

<https://moriwaku.jp/services/2765>

◆兵庫県立森林大学校「先進事例に学ぶ再生可能エネルギー事業と地域森林資源の活用」研修

月日 2018年3月6日(火)～7日(水)

場所 6日: 県立森林大学校(兵庫)、7日: 岡山県西粟倉村(岡山)

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/cs01/rindai/kenssyuuka/baiomasukennsyuu0306.html>

◆NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク第173回研究会「西粟倉村の木質バイオマス利用～ローカルベンチャーによるエネルギー自給の取り組み(仮題)～」

月日 2018年3月7日(水)

場所 地球環境パートナーシッププラザ(東京都渋谷区)

<http://www.npobin.net/apply/>

◆国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所公開セミナー「これからの森林づくりと林業生産に向けた技術的課題」

月日 2018年3月7日(水)

場所 木材会館7階ホール(東京都江東区)

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/event/2018/20180307seminar/index.html>

◆(一社)全国木材検査・研究協会、他「林野庁委託事業『生産国情報収集事業』現地調査結果報告会」

月日 2018年3月7日(水)

場所 主婦会館プラザエフ7階 カトリア(東京都千代田区)

http://www.jafta.or.jp/contents/information/332_list_detail.html

◆(公財)自然エネルギー財団 国際シンポジウム

「REvision2018: 自然エネルギー大量導入が世界を変える」

月日 2018年3月7日(水)

場所 イイノホール(東京都千代田区)

<https://www.renewable-ei.org/activities/events/20180307.html>

◆神奈川県川崎市「平成29年度かわさき環境エネルギーセミナー～スマートハウスで快適な暮らしを～」

月日 2018年3月8日(木)

場所 川崎市産業振興会館9階第3研修室(神奈川県川崎市)

<http://www.city.kawasaki.jp/templates/press/300/0000094176.html>

◆(株)森のエネルギー研究所「林野庁補助事業 新たな木材需要創出総合プロジェクト事業(発電・熱電併給等推進のための調査)成果報告会」

月日 2018年3月9日(金)

場所 TKP東京駅日本橋カンファレンスセンターホール2A(東京都中央区)

<http://www.mori-energy.jp/2018/02/07/new-%E5%B9%B3%E6%88%9030%E5%B9%B4%E6%9C%88%E6%97%A5%E5%EF%BC%88%E9%87%91%E5%BC%89%E6%9E%97%E9%87%8E%E5%BA%81%E8%A3%9C%E5%8A%A9%E4%BA%8B%E6%A5%AD-%E6%96%B0%E3%81%9F%E3%81%AA%E6%9C%A8%E6%9D%90%E9%9C%80/>

◆FoE Japan 国際シンポジウム 「3・11を忘れない～核なき未来へ向けて」

月日 2018年3月9日(金)

場所 文京区民センター3A(東京都文京区)

<http://www.foejapan.org/energy/evt/180309.html>

◆火の国未来づくりネットワーク阿蘇地域ブロック「阿蘇地域づくりセミナー&交流会」

月日 2018年3月9日(金)

場所 国立阿蘇青少年交流の家3階中研修室(熊本県阿蘇市)

<http://kbf.sub.jp/2018/01/%e9%98%bf%e8%98%87%e5%9c%b0%e5%9f%9f%e3%81%a5%e3%81%8f%e3%82%8a%e3%82%bb%e3%83%9f%e3%83%8a%e3%83%bc%ef%bc%86%e4%ba%a4%e6%b5%81%e4%bc%9a%e3%81%ae%e3%81%94%e6%a1%88%e5%86%85/>

◆NPO 法人農都会議 バイオマス WG/農都交流・地域支援 G「2017年経過報告・2018年政策検討会 ～再エネ・森林・バイオマス活用に向けた提言づくり」

月日 2018年3月12日(月)

場所 港区神明いきいきプラザ4階集会室A(東京都港区)

<http://blog.canpan.info/bioenergy/archive/192>

◆(特非)日本環境倶楽部 環境セミナー「SDGsの達成に向けた企業行動とは」～SDGs 取組み先進企業に学ぶ～

月日 2018年3月12日(月)

場所 株式会社NTT データ エグゼクティブセミナールーム
(東京都江東区)

<https://kankyoclub.or.jp/event/1803-1.html>

◆(一社)日本木材学会「第68回日本木材学会大会(京都大会)」

月日 2018年3月14日(水)~16日(金)

場所 京都府立大学下鴨キャンパス、国立京都国際会館(両会場共、京都府京都市左京区)

<http://www.jwrs.org/wood2018/>

◆(一社)日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)第5回「林業復活・地域創生を推進する国民会議」

月日 2018年3月16日(金)

場所 ホテル グランドアーク半蔵門(東京都千代田区)

<http://www.japic.org/information/5.html>

◆国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所平成29年度(後期)森林講座「香るサクラ」

月日 2018年3月17日(土)

場所 多摩森林科学園 森の科学館(東京都八王子市)

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/news/2017/20170906shinrinkouza/index.html>

◆環境省「平成29年度廃棄物エネルギーの地域での利活用促進に関する説明会」

月日 2018年3月19日(月)

場所 (関東会場)三鷹産業プラザ703,704,705会議室(東京都三鷹市)

<http://www.env.go.jp/press/104989.html>

◆NPO法人農都会議飯能木質バイオマスエネルギー協議会共同講演会「はなのう塾 第2回、まちエネ大学 飯能スクール報告会—東京の身近な山村、飯能を知り、都市山村交流と森林・バイオマス活用を考える—」

月日 2018年3月19日(月)

場所 港区神明いきいきプラザ4階集会室A(東京都港区)

<http://blog.canpan.info/noutochiiki/archive/250>

◆新社会システム総合研究所「平成30年度税制改正による 省

エネ再エネ高度化投資促進税制等 ~省エネ設備・再生可能エネルギー設備の最新税務~」

月日 2018年3月20日(火)

場所 SSK セミナールーム(東京都港区)

<https://expotoday.com/event/12827/>

◆農林水産技術会議「農林水産業イノベーションシンポジウム」

月日 2018年3月20日(火)

場所 農林水産省本館7階講堂(東京都千代田区)

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/180125.html>

◆ウータン・森と生活を考える会「ボルネオ島で森林再生に取り組むイサムさんの講演会」

月日 2018年3月22日(木)

場所 地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)(東京都渋谷区)

http://www.geoc.jp/rashinban/event_detail_35699.html

◆林野庁「国際森林デー2018 みどりの地球を未来へ ~五感でつなげる世界の輪~」

月日 2018年3月24日(土)

場所 木材・合板博物館(東京都江東区)

http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/sanson_ryokka/180202.html

◆(一社)日本森林学会「第129回日本森林学会大会」

月日 2018年3月26日(月)~29日(木)

場所 高知市内および高知大学(高知)

<https://www.forestry.jp/meeting/>

◎リード エグジビション ジャパン「第2回関西次世代農業EXPO~植物工場・ITなどの最新技術展~」

月日 2018年5月9日(水)~11日(金)

場所 インテックス大阪(大阪府大阪市住之江区)

<http://www.agri-next.jp/kansai/>

◆林野庁第28回森と花の祭典—「みどりの感謝祭」式典併催行事「みどりとふれあうフェスティバル」

月日 2018年5月12日(土)~13日(日)

場所 日比谷公園にれのき広場等(東京都千代田区)

http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/sin_riyou/180202.html

◎CMT「9th Biomass Pellets Trade & Power 第9回バイオマス・ペレット会議～貿易と発電～」

月日 2018年5月14日(月)～17日(木)

場所 東京マリオットホテル(東京都品川区)

<http://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=180501&>

◆日報ビジネス(株)「2018NEW 環境展(N-EXPO 2018)/地球温暖化防止展」

月日 2018年5月22日(火)～25日(金)

場所 東京ビッグサイト 有明 東展示棟(東京都江東区)

https://www.nippo.co.jp/n-expo018/ne18_b.htm

◎バイオマスエキスポ実行委員会「バイオマスエキスポ 2018」

月日 2018年5月30日(水)～6月1日(金)

場所 東京ビッグサイト東ホール(東京都江東区)

<https://www.biomassexpo.info/expo/%E3%83%90%E3%82%A4%E3%82%AA%E3%83%9E%E3%82%B9%E3%82%A8%E3%82%AD%E3%82%B9%E3%83%9D2018/>

◆森の映像祭実行委員会「森の映像祭」(みどり・森林・山村 振興 映像祭)上映会

月日 2018年6月16日(土)

場所 木材・合板博物館(東京都江東区)

<http://morinoeizo.com/archives/13>

◆リードエグジビジョンジャパン(株)「関西スマートエネルギーWeek 2018」

月日 2018年9月26日(水)～28日(金)

場所 インテックス大阪(大阪府大阪市住之江区)

<http://www.wsew.jp/>

◎リードエグジビジョンジャパン(株)「関西スマートエネルギーWeek 2018内『第3回 関西バイオマス発電展』」

月日 2018年9月26日(水)～28日(金)

場所 インテックス大阪(大阪府大阪市住之江区)

<http://www.bm-kansai.jp/ja/Home/>

◆世界循環経済フォーラム 2018

月日 2018年10月22日(月)～23日(火)

場所 パシフィコ横浜国際会議場(神奈川県横浜市)

<http://www.env.go.jp/press/105046.html>

4. イベント情報(海外)

◆Annual ISCC Global Sustainability Conference

月日 2018年2月20日(火)

場所 ブリュッセル(ベルギー)

<https://www.iscc-system.org/stakeholders/annual-iscc-global-sustainability-conference/>

◆2018 IrBEA National Conference - Bioenergy Future Ireland

月日 2018年2月21日(水)

場所 ダブリン(アイルランド)

<http://www.aebiom.org/events/irbea-national-conference/>

◎World Sustainable Energy Days 2018 - European Pellet Conference 2018-

月日 2018年2月28日(水)～3月1日(木)

場所 ヴェルス(オーストリア)

<http://www.wsed.at/en/programme/european-pellet-conference.html>

◎World Sustainable Energy Days 2018 - Young Energy Researchers Conference "Energy Efficiency & Biomass" -

月日 2018年2月28日(水)～3月1日(木)

場所 ヴェルス(オーストリア)

<http://www.wsed.at/en/programme/young-energy-researchers.html>

◎World Sustainable Energy Days 2018

月日 2018年2月28日(水)～3月2日(金)

場所 ヴェルス(オーストリア)

<http://www.wsed.at/en/world-sustainable-energy-days.html>

◆ECO-BIO 2018

月日 2018年3月4日(日)～7日(水)

場所 ダブリン(アイルランド)

<https://www.elsevier.com/events/conferences/eco-bio>

◆VI Forum of Biomass and Waste

月日 2018年3月9日(金)～10日(土)

場所 クラクフ(ポーランド)

<http://cbepolska.pl/pl/vi-forum-of-biomass-a-waste.html>

◎BOIS ENERGIE 2018

月日 2018年3月15日(木)～18日(日)

場所 グルノーブル(フランス)

<http://www.boisenergie.com/>

◆WORLD BIO MARKETS

月日 2018年3月20日(火)～22日(木)

場所 アムステルダム(オランダ)

<https://www.biobasedworldnews.com/events/world-bio-market-s>

◎VICTAM ASIA 2018

月日 2018年3月27日(火)～29日(木)

場所 バンコク(タイ)

<https://victamasias.com/>

◆Energy Efficiency and Renewable Energy 14th South-East European Exhibition

月日 2018年3月27日(火)～29日(木)

場所 ソフィア(ブルガリア)

<https://viaexpo.com/en/pages/ee-re-exhibition>

◆9th Waste Management & Recycling South-East European Exhibition

月日 2018年3月27日(火)～29日(木)

場所 ソフィア(ブルガリア)

<https://viaexpo.com/en/pages/waste-management-recycling-exhibition>

◆GASIFICATION 2018

月日 2018年3月28日(水)～29日(木)

場所 フランクフルト(ドイツ)

<http://www.wplgroup.com/aci/event/gasification/>

◆the fifth Wood Bioenergy Conference & Expo

月日 2018年4月11日(水)～12日(木)

場所 ジョージア州アトランタ(USA)

<http://www.bioenergyshow.com/>

◆BBS 2018 The 6th China International Bioenergy and Biomass Utilization Summit

月日 2018年4月12日(木)～13日(金)

場所 上海(中国)

<http://www.bbs-summit.com/en/>

◎11th Annual International Biomass Conference & Expo

月日 2018年4月16日(月)～18日(水)

場所 ジョージア州アトランタ(USA)

<http://www.biomassconference.com/ema/DisplayPage.aspx?pageId=Home>

◆BIOGAS ASIA PASIFIC FORUM 2018

月日 2018年4月16日(月)～19日(木)

場所 クアラルンプール(マレーシア)

<http://www.icesn.com/>

◎Argus Biomass 2018

月日 2018年4月17日(火)～19日(木)

場所 ロンドン(UK)

<http://www.argusmedia.com/events/argus-events/europe/argus-euro-biomass/home/>

◆RENEXPO® WATER & ENERGY Western Balkans

月日 2018年4月25日(水)～26日(木)

場所 ベオグラード(セルビア)

<http://www.renexpo-belgrade.com/index.php?id=7&L=1>

◆5th Africa Oil Palm & Rubber Summit

月日 2018年4月25日(水)～26日(木)

場所 アクラ(ガーナ共和国)

<http://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=180407&>

◆8th European Algae Industry Summit

月日 2018年4月25日(水)～26日(木)

場所 ウィーン(オーストリア)

<http://www.wplgroup.com/aci/event/european-algae-industry-summit/>

◆All-Energy Exhibition and Conference 2018

月日 2018年5月2日(水)～3日(木)

場所 グラスゴー(イギリス)

www.all-energy.co.uk

◆ICCI 2018 : 24th International Energy & Environment Fair & Conference

月日 2018年5月2日(水)～4日(金)

場所 イスタンブール(トルコ)

<http://www.icci.com.tr/en>

◆5th International Conference on Renewable Energy Gas Technology, REGATEC 2018

月日 2018年5月3日(木)～4日(金)

場所 トゥールーズ(フランス)

<http://regatec.org/>

◆RoEnergy South-East Europe

月日 2018年5月9日(水)～11日(金)

場所 ブカレスト(ルーマニア)

<http://bucuresti.roenergy.eu/>

◎EUBCE 2018 26th European Biomass Conference & Exhibition

月日 2018年5月14日(月)～18日(金)

場所 コペンハーゲン(デンマーク)

<http://www.eubce.com/home.html>

◎Argus Biomass Asia 2018

月日 2018年6月6日(水)～7日(木)

場所 シンガポール(シンガポール)

<http://www.argusmedia.com/asia-biomass/>

◆International Fuel Ethanol Workshop& Expo

月日 2018年6月11日(月)～13日(水)

場所 ネブラスカ州オマハ(USA)

<http://www.fuelethanolworkshop.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home>

◆POWER-GEN AFRICA

月日 2018年7月17日(火)～19日(木)

場所 ヨハネスブルグ(南アフリカ共和国)

<http://www.powergenafrika.com/index.html>

◆The 7th Asia-Pacific Biomass Energy Exhibition (APBE 2018)

月日 2018年8月16日～18日

場所 広州市(中国)

<http://www.apbechina.com/index.php?lang=en>

◆ASIA POWER WEEK

月日 2018年9月18日(火)～20日(木)

場所 ジャカルタ(インドネシア)

<http://www.asiapowerweek.com/en/index.html>

◎USIPA' s EXPORTING PELLETS CONFERENCE

月日 2018年10月8日(月)～10日(水)

場所 イリノイ州シカゴ(USA)

<http://www.usipaconference.com/conference/announcement>

◆The 10th PALMEX Indonesia 2018

月日 2018年10月9日(火)～11日(木)

場所 メダン(インドネシア)

<http://www.palmoilexpo.com/>

◆IBBK Biogas : Science Meets Practice, international conference with trade exhibition and excursion 'Progress in the treatment and use of manure and digestate

月日 2018年10月16日(火)～17日(水)

場所 シュヴェービッシュ・ハル(ドイツ)

<http://www.ibbk-biogas.de/en-gb/schedule>

◆International Power Industry, Energy Efficiency, Infrastructure and Environmental Technology Fair

月日 2018年10月19日～21日

場所 リガ、キプサラ地区(ラトビア共和国)

<http://www.bt1.lv/ee/eng/>

◆European Biomass to Power

月日 2018年11月7日(水)～8日(木)

場所 スtockホルム(スウェーデン)

<http://www.wplgroup.com/aci/event/european-biomass-to-power/>

◆HEATEC Shanghai International Exhibition on Heating

月日 2018年11月28日(水)～30日(金)

場所 上海(中国)

<https://www.heatecchina.com/Heatec17/Home/lang-eng/Information.aspx>

◆ALGAEUROPE 2018

月日 2018年12月4日(火)～6日(木)

場所 アムステルダム(オランダ)

<http://algaeurope.org/>

5. ペレットストーブ、ボイラ補助金情報

◇: ストーブ

◆: ストーブ・ボイラ共

【長野県】

◇安曇野市「平成29年度安曇野市ペレットストーブ導入促進

事業補助金の追加募集」

<http://www.city.azumino.nagano.jp/soshiki/30/41797.html>

※2018年2月28日までに設置工事が完了する方等の条件有

6. 公募等情報(締切順)

◇経産省資源エネ庁「平成30年度『地域の特性を活かしたエネルギーの地産地消促進事業費補助金(分散型エネルギーシステム構築支援事業)』に係る補助事業者(執行団体)の公募について」

公募期間 2018年1月29日(月)～2月19日(月)

http://www.enecho.meti.go.jp/appli/public_offer/1801/180129a/

◇経産省資源エネ庁「平成30年度『地域の特性を活かしたエネルギーの地産地消促進事業費補助金(再生可能エネルギー熱事業者支援事業)』に係る補助事業者(執行団体)の公募について」

公募期間 2018年1月26日(金)～2月21日(水)

http://www.enecho.meti.go.jp/appli/public_offer/1801/180126a/

◇鳥取県「鳥取県再生可能エネルギー活用事業可能性調査支援補助金」

募集期間 2017年4月1日(土)～2018年2月28日(水)

<http://www.pref.tottori.lg.jp/195435.htm>

◇宮崎県「平成30年度『みやざき林業青年アカデミー』研修生の募集について」

2次募集締切 2018年3月2日(金)

<http://www.pref.miyazaki.lg.jp/shinrin-keiei/shigoto/ringyo/20170917125530.html>

◇資源エネ庁「『電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法施行規則の一部を改正する省令案等』に関するパブリックコメントの募集を開始」

意見・情報受付 2018年2月7日(水)～3月8日(木)

<http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=620118004&Mode=0>

◇長野県諏訪市「平成29年度再生可能エネルギー等導入設置補助金」

申請受付 2017年4月3日(月)～2018年3月

<http://www.city.suwa.lg.jp/www/service/detail.jsp?id=8470>

※2018年3月9日(金)までに実績報告書提出要

◇北海道下川町「ローカルベンチャー『シモカワベアーズ』始動、地域での起業家・後継者を募集！」

募集期間 2018年1月31日(水)～3月31日(日)

<https://www.zaikei.co.jp/releases/583178/>

◇森の映像祭実行委員会「森の映像祭(みどり・森林・山村振興 映像祭)」作品募集

募集期間 2018年3月7日(水)～5月7日(月)

<http://morinoeizo.com/>

◇東京都「東京都区市町村との連携による地域環境力活性化事業」

事業期間 2014年度～2023年度までの10年間

http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/policy_others/municipal_support/current.html

◇新潟県柏崎市「柏崎市ECO2プロジェクト」

<http://www.city.kashiwazaki.lg.jp/ondan/machi/kankyo/eco2/ondanka.html>

◇高知県香南市「香南市燃料タンク対策事業費補助金」

http://www.city.kochi-konan.lg.jp/reiki_int/reiki_honbun/r254RG00001291.html

◇京都府「自立型再生可能エネルギー導入等計画の認定及び導入支援制度」

申請期間 2015年10月1日(木)～

<http://www.pref.kyoto.jp/energy/documents/ninteiseidogaiyou.pdf>

◇栃木県「栃木県環境保全資金(省エネ設備等の導入)」

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/d02/eco/kankyou/ondanka/syoutene-setubi-yuusi.html>

※融資制度

◇徳島県「自然エネルギー立県とくしま推進資金」

<http://www.pref.tokushima.jp/docs/2010112200159/files/H29yuushi.pdf>

※融資制度

◇資源エネルギー庁「グリーン投資減税」

http://www.enecho.meti.go.jp/category/others/green_tax/greensite/green/index.html